

ワクチン情報文書

インフルエンザワクチン(不活化型または組み換え型) : 知っておきたいこと

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See www.immunize.org/vis for details. 多くのワクチン情報文書がスペイン語その他の言語で準備されています。
www.immunize.org/visをご覧ください。

1 なぜワクチン接種が必要ですか？

インフルエンザは米国内で毎年流行する感染症で、流行時期は10月から5月です。

原因はインフルエンザウィルスで、咳・くしゃみ・他人との密接な接触でうつります。

誰でもインフルエンザに感染します。インフルエンザは急に発症し、数日間続きます。年齢により様々ですが、以下の症状があげられます：

- 発熱・悪寒
- のどの痛み
- 筋肉痛
- 倦怠感
- 咳
- 頭痛
- 鼻水・鼻詰まり

インフルエンザにより肺炎・血液感染に進展したり、子供には下痢・けいれんが起きる場合があります。心臓や肺疾患などの病気にかかっている場合、インフルエンザによって悪化する場合があります。

人によってインフルエンザ感染の危険性が高まります。乳幼児・65歳以上の高齢者・妊婦・病人や、免疫力が低下している場合に、感染のリスクが高まります。

毎年米国でインフルエンザにより何千人もの死者が出ており、それ以上の入院数が報告されています。

インフルエンザワクチン接種で以下が期待できます：

- インフルエンザ感染を避けることができ、
- インフルエンザに感染した場合でも軽い症状で済み、
- 家族その他の人々へのインフルエンザ感染拡大を防ぐことができます。

2 不活性化および組み換え型インフルエンザワクチン

インフルエンザワクチンは、毎年の流行時期に1回接種することが推奨されています。生後6カ月から8歳までの乳幼児は、同じ流行時期に2度の接種が必要となる場合があります。それ以外の人々は、流行時期の接種は1回のみです。

不活化ワクチンには、ごく少量の水銀を含む防腐剤が加えられているものがあります。ワクチンに含まれるチメロサルが有害であるという研究報

告はありません。チメロサルを含まないワクチンも開発されています。

インフルエンザワクチンは生ワクチンではありません。ワクチン接種によりインフルエンザが発症することはありません。

インフルエンザウィルスは多くの型があり、常に変化しています。その年に流行が予想される3-4種のウィルスの型に対応するインフルエンザワクチンが、毎年新たに開発されます。ワクチンがウィルスの型に一致しない場合でも、一定の予防効果があります。

インフルエンザワクチンで以下は予防されません：

- ワクチンの対象外のウィルスで感染したインフルエンザや、
- インフルエンザに類似した病気。

ワクチン接種後、2週間ほど経過して免疫が確立され、流行時期が終わるまで維持します。

3 ワクチン接種を避けなければならない場合

以下のような場合、予防接種担当者にお知らせください：

- 何かに生死に関わる強いアレルギーがある場合。
インフルエンザワクチン接種後に生死に関わるアレルギー反応が見られた場合、またワクチンの成分に強いアレルギーがある場合、ワクチン接種を控えるよう指示される場合があります。ほとんどの型のインフルエンザワクチンには、少量の卵タンパク質が含まれます。
- 今までにギラン・バレー症候群 (GBS) を発症した場合。
GBSにかかったことがある場合、インフルエンザワクチンを接種してはならない場合があります。医師とご相談ください。
- 気分が優れないとき。
軽い病気にかかっている場合でもインフルエンザワクチンの接種はできますが、回復してからの接種を勧められる場合があります。



U.S. Department of
Health and Human Services
Centers for Disease
Control and Prevention

4 ワクチンの副反応のリスク

薬の副作用と同様に、予防接種にも副反応が見られる場合があります。これらの症状は通常軽く、自然に治まりますが、深刻な反応が見られる場合もあります。

インフルエンザワクチンを接種しても、ほとんどの場合に問題はありません。

インフルエンザワクチン接種後に発生する軽度の問題には以下が含まれます：

- 接種部分の痛み・赤み・腫れ
- 発熱
- 痛み
- 声がれ
- 頭痛
- 目の痛み・赤み・かゆみ
- かゆみ
- 咳
- 倦怠感

これらの症状は、通常接種直後に現れ、1-2日間続きます。

接種後のより深刻な問題としては、次があげられます：

- 不活化ワクチン接種後に、ギラン・バレー症候群（GBS）が発症するリスクがわずかに高まります。これはワクチン接種者100万人に1-2人の確率と推定されています。これは、インフルエンザ感染で重い症状に進展する確率に比べれば、非常に低いものです。インフルエンザ感染はワクチン接種で予防できます。
- 肺炎球菌ワクチン（PCV13）・DTaPワクチンの一方か両方とインフルエンザワクチン接種を同時に行った幼児の場合、熱性けいれんを起こす可能性がわずかに高まります。詳しくは医師にお尋ねください。過去にけいれんを起こしたことがある場合は、インフルエンザワクチン接種時に医師にお伝えください。

ワクチン予防接種後に想定される問題：

- 予防接種などの医療処置を受けた場合、気を失う場合があります。15分程度座る、または横になることで失神を避け、転倒してけがをすることが防げます。目がくらんだり、視野に変化があったり、耳鳴りがする場合は医師に知らせてください。
- 接種後に肩に激痛があったり、接種した方の腕が動かしくくなる場合があります。これらが見られる場合は非常に稀です。
- どのような薬も強いアレルギー反応を引き起こす可能性があります。ワクチン接種によるこのような反応は非常に稀で、100万回に1回程度で、接種後数分-数時間で発生するものとされています。

他の薬と同様、ワクチン接種が深刻なけがや死亡の原因となる可能性は非常に低くなっています。

ワクチンの安全性確認は常に行われています。詳しくは以下をご覧ください：

www.cdc.gov/vaccinesafety/

5 重大な反応があった場合には？

どのようなことに注意せねばなりませんか？

- 強いアレルギー反応・高熱・行動の変化などがなければ注意して観察してください。

強いアレルギー反応の症状としては、蕁麻疹・顔面と喉の腫れ・呼吸困難・心拍増加・めまい・虚弱などがあげられます。これらの症状は、接種後数分から数時間後に現れます。

何をすべきですか？

- 強いアレルギー反応その他の緊急事態と考えられる場合には、救急車(9-1-1)を呼んで最寄りの病院で受診してください。それ以外の場合は、主治医に連絡をしてください。
- アレルギー反応はワクチン有害事象例報告データベース（VAERS）へ報告する必要があります。担当医師に報告義務がありますが、VAERSのウェブサイトwww.vaers.hhs.govで、または電話1-800-822-7967での自己報告も可能です。

VAERSでは医療に関する診断は行いません。

6 全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム（VICP）は、特定のワクチンで被害を受けた人々を救済するために設けられた連邦政府のプログラムです。

ワクチン接種による被害の疑いがある場合、電話1-800-338-2382またはVICPのウェブサイトwww.hrsa.gov/vaccinecompensationでプログラム内容を確認し、補償請求を提出することができます。補償請求には提出期限があります。

7 より詳しい情報は？

- 医師にお尋ねください。ワクチン添付文書やその他の情報源について助言を受けることができます。
- お住まいの地域か州の保健局に連絡ください。
- 疾病対策センター（CDC）にご連絡ください：
 - 1-800-232-4636（1-800-CDC-INFO）まで電話か、
 - CDC（疾病対策センター）のウェブサイトwww.cdc.gov/fluをご覧ください

Vaccine Information Statement - Japanese
Inactivated Influenza Vaccine

08/07/2015

42 U.S.C. § 300aa-26

Office Use Only



Translation provided by the Oregon Health Authority